

週休二日の実現に向けて



働き方を変える。建設業を変えていく。

これは、単なるスローガンではありません。必ず成し遂げるといふ宣言であり、約束でもあります。

小さな気付きや行動から、業界全体を変えていく。

一人ひとりの働き方を見直すことが、次世代の働き手を増やすことにもつながると思うから。

週休二日を。

誰もが笑顔で働ける未来を。すべての現場で実現していきます。



確かなものを 地球と未来に

一般社団法人 **日本建設業連合会 九州支部**

JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS KYUSHU BRANCH OFFICE

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目3-22 産恵ビル3階 TEL 092-451-6244 FAX 092-481-0941

編集・発行 総務広報委員会

一般社団法人 日本建設業連合会 本部・各支部

本 部	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 TEL03-3553-0701 FAX03-3551-4954	中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄3-28-21 TEL052-261-3808 FAX052-261-4363	愛知・岐阜・静岡・三重
北海道支部	〒060-0004 札幌市中央区北四条西3丁目 TEL011-261-6243 FAX011-261-2528	関西支部	〒540-0031 大阪市中央区北浜東1-30 TEL06-6941-3658 FAX06-6942-4031	大阪・福井・滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山
東北支部	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 TEL022-221-7810 FAX022-265-9465	中国支部	〒730-0051 広島市中区大手町2-11-15 TEL082-243-3017 FAX082-242-2380	広島・鳥取・島根・岡山・山口
関東支部	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 TEL03-3552-3208 FAX03-3552-3206	四国支部	〒760-0026 高松市磨屋町6-4 TEL087-851-6969 FAX087-851-3176	香川・徳島・愛媛・高知
北陸支部	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1 TEL025-285-8886 FAX025-285-8884	九州支部	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-3-22 TEL092-451-6244 FAX092-481-0941	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

(一社)日本建設業連合会ホームページ
<https://www.nikkenren.com/>

日建連のホームページには、建設業に関する基本データ、戦後の建設業界の関連年表、全国の土木博物館一覧表、また、他では見られない迫力ある土木写真など、お役に立つ情報が満載です。ぜひ、アクセスしてみてください。

九州の建設業 [キーストン]

Keystone

vol.38
2022年2月発行

Keystone / キーストン

要石(かなめ石)の意。社会資本の整備を通じて当団体が、豊かな未来づくりのかなめとなるよう願いをこめて。



白水ダム

一般社団法人 日本建設業連合会 九州支部

Message

支部長ご挨拶



(一社)日本建設業連合会
九州支部 支部長

川村 信司

〈大成建設㈱ 九州支店長〉

「生産性の向上」と「働き方改革」で 魅力ある建設産業へ

九州支部長の川村でございます。
本誌をご覧の皆様には当支部の事業活動につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

一昨年から全世界でパンデミックを引き起こしている新型コロナウイルス感染症により、わが国の社会経済や国民生活は深刻な影響を受けており、依然として、予断を許さない状況です。

また、近年、日本各地で豪雨などの自然災害は激甚化・頻発化しており、防災・減災、国土強靭化への取り組みは喫緊の課題となっています。さらに、近い将来、発生する確率が高いと言われております南海トラフ巨大地震や津波に対する備えや、防災・減災のための取り組みがますます重要性を高めております。

こうした中、政府は令和3年度から令和7年度までの5年間で、追加的に必要となる事業規模を政府全体で概ね15兆円を目途として、重点的かつ集中的に対策を講ずることとし、「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」を閣議決定しております。

一方、建設業における就業者の高齢化は確実に進行しており、次世代の担い手となるべき若手技能労働者の確保が喫緊の課題となっています。

この課題に対応すべく日建連では、「担い手確保」「生産性の向上」「働き方改革」を重要課題に位置付け、持続的に社会資本を整備し、地域社会の安全・安心を確保できるよう、建設業を魅力ある産業に進化させる活動を進めております。

「担い手確保」については、建設キャリアアップシステムの普及を促進し、その先にある建設技能者の処遇改善につなげてまいります。

「生産性の向上」についてもプレキャスト化の促進、i-ConstructionやDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進など新技術の現場への展開を進めることにより、現場の生産性向上も進めてまいります。

また、「働き方改革」については、2024年度に迫った時間外労働の上限規制への対応として、労働時間の短縮を更に推進し、現場における週休二日の実現に向けて取り組みを加速してまいりたいと考えております。

引き続き建設業界の健全な発展と魅力ある建設産業づくりのための活動を展開してまいりますので、皆様のご理解ご協力と今一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

九州の建設業 [キーストン] Keystone

vol.38
2022年2月
発行

contents

九州ウォッチング

2 ともに築こう
安心・活力・発展の大分の未来
〈大分県〉

けんせつ小町

いつもイキイキ けんせつ小町!

10 前田建設工業株式会社 九州支店
臧 力嬌さん

12 若築建設株式会社 九州支店
田澤 七海さん

日建連の取組み

14 建設業の今とこれからをみんなで支える
建設キャリアアップシステム

Report

16 令和3年度大規模津波防災総合訓練

17 九州の社会資本整備の重要性に関するシンポジウム

18 ・インターンシップ講演会

19 ・九州建設技術フォーラム2021
・意見交換会

20 ・災害防止総決起大会
・建設技術講演会

21 ・安全環境委員会活動
・生産性向上、担い手確保に関する講習会



Outline

22 団体の概要

Information

24 会員・役員名簿

【2021年度・新型コロナウイルス感染防止対応について】

1) 日建連九州支部主催の各催しにおいては、参加者には全員マスク着用をお願いし、適度な社会的距離を保った座席配置で実施しています(人数制限のうえ、体温測定や手指消毒も実施)。

2) 学校や一般の方を対象とする「現場見学会」及び、安全環境委員会の「現場点検」は中止しました。

3) 「けんせつ小町」の撮影においては、撮影スタッフは体温測定と手指消毒を行い、マスクを着用して実施しています。なお、撮影対象者がマスクを外した際も適度な距離を保ち、極力会話を交わさず、短時間で実施しています。

ともに築こう 安心・活力・発展の大分の未来



〈大分県知事〉
ひろせ かつただ
広瀬 勝貞 昭和17年6月25日生まれ

■略歴	
昭和41年 東京大学法学部卒業	平成15年4月 大分県知事就任
昭和41年 通商産業省入省(現 経済産業省)	平成22年3月 九州地方知事会会長就任
平成 3年 内閣総理大臣秘書官	平成24年9月 全国知事会国土交通常任委員長就任 (現 全国知事会国土交通・観光常任委員長)
平成 6年 通商産業省貿易局長	
平成11年 通商産業省事務次官	
平成13年 経済産業省事務次官	



はじめに

令和3年は、大分県において大きな災害は無かったものの、令和2年7月豪雨災害からの復旧・復興が本格化しており、建設業の皆様方には、コロナ禍にもかかわらず、工事実施に大変なご尽力いただき、感謝申し上げます。その被害は山間部の広範囲にわたり、公共土木施設の災害被害額も平成24年九州北部豪雨の1.3倍、平成29年九州北部豪雨と台風18号合計の1.5倍にのぼり、復旧・復興はまだ道半ばです。住民の皆様が一日も早く安全・安心な暮らしができるよう努めてまいりますので、引き続き、皆様方のご協力をお願いします。

さて、県では、平成27年に大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」を策定しましたが、国内外の諸情勢が目まぐるしく変化する中、計画期間10年の折り返しにあたる令和2年度、時代の潮流を的確に捉え、大分県の未来を切り拓いていくため、抜本的な見直しを行いました。コロナ禍により都会への集中から地方への分散へとパラダイムシフトとも言うべき社会変容が起こる中、これを好機と捉え、改訂の柱とした「大分県版地方創生の加速前進」「先端技術への挑戦」「強靱な県土づくり」について関係施策を着実に進め、「安心・活力・発展」の大分の未来を創造していかなければなりません。

そのためには、社会資本整備が重要になってきます。社会資本は、社会経済活動の基盤として県民生活を支えることはもとより、将来にわたって発展していくための活力源です。このため、土木建築部長期計画である「おおいた土木未来プラン2015」についても新たな3つの柱を組み込み改訂し、「安心・活力・発展」の県土づくりを進めています。

「大分県版地方創生の加速前進」では、地方創生回廊となる東九州自動車道の4車線化や中九州横断道路、中津日田道路などの広域道路ネットワークや大分港、別府港などの九州の東の玄関口の拠点となる港湾の整備を着実に進めます。

「先端技術への挑戦」では、遠隔臨場やICT施工など建設DXの導入による建設業の効率化を進め、さらには週休2日制の普及や女性活躍の推進等、建設業においても顕在化している人手不足や高齢化への対応に取り組んでいきます。

そして、「強靱な県土づくり」では、国が令和3年にスタートさせた5年間で事業規模おおむね15兆円とする「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を積極的に活用します。玉来ダム建設や玖珠川河川改修をはじめとする治水対策、砂防事業や急傾斜地崩壊対策事業等の土砂災害対策、大分臨海コンビナート護岸の機能強化等の地震津波対策、加えて老朽化対策や孤立集落の防止に向けた道路斜面对策などを効果的に進め、近年の頻発化・激甚化する自然災害に対して機能を持続的に発揮できるしなやかで強靱な県土づくりを急ぎます。

私は、「県民中心の県政」「現場主義」を旨としています。土木建築部では「私たちは、すぐに駆けつけます」「私たちは、よく見、よく聞きます」「私たちは、常に改善していきます」の3つのスローガンを職員の心得とする「土木未来行動指針」を作成し、職員は常にこれを意識しながら、日夜、現場で奔走しています。これまで以上に、県民の声に耳を傾け、県民の考えを行政運営に反映させながら、県民とともに「安心・活力・発展」の大分の未来を築いてまいります。

大分県土木建築部の主な取組

土木未来行動指針

県民が主役の、県民とともに進める土木建築行政

3 私たちは、常に改善していきます。

- 1 豊かで暮らしやすい県土づくりを目指し、社会の変化に対応した施策を常に考えます。
- 2 災害時危機管理体制の充実に努めます。

1 私たちは、すぐに駆けつけます。

- 1 土木事務所は「地域の総合防災センター」です。道路の穴ぼこなど何かお気づきのことはありませんか?1時間(1hour)を目処に現場に到着するよう努めます。
- 2 国、市町村等との連絡体制を強化します。
- 3 災害が発生した場合には、職員が直ちに駆けつけ、初動体制を確立します。

2 私たちは、よく見、よく聞きます。

- 1 あらゆる機会を通じて、県民の皆様と対話し、地域に密着した土木建築行政を推進します。
- 2 大雨や地震などに対して不安はありませんか?職員が現場をよく見、地域の皆様のお話を伺います。
- 3 相談等への対応方針を1日(1day)以内にお知らせします。

1hour and 1day response

おおいた土木未来プラン2015(改訂)

大分県土木建築部長期計画

時代の要請

大分県版地方創生の加速前進

先端技術への挑戦

強靱な県土づくり

基本理念：「生命」を紡ぐ県土づくり

1 安心な暮らしを守る強靱な県土づくり

2 活力と潤いのある魅力的な地域づくり

3 発展を支える交通ネットワークの充実

取組にあたっての視点

県民参加型行政の推進

効率的・効果的な事業の推進

自然環境や周辺景観などへの配慮

人づくりの推進

1 安心な暮らしを守る強靱な県土づくり

1. 治水対策の推進

玉来ダムの建設や令和2年7月豪雨で浸水被害を受けた玖珠川天ヶ瀬温泉地区において、改良復旧のほか、流域治水プロジェクトに基づき、あらゆる関係者と共に総合的な治水対策に取り組みます。

- 形式：重力式コンクリートダム(流水型)
- 堤高：52m
- 堤体積：約18万m³
- 堤頂長：145m
- 総貯水容量：409万m³



流域治水のイメージ(国土交通省資料)



令和4年度の完成を目指す玉来ダム(R3.11.16撮影)／竹田市



令和4年度の事業化を目指す玖珠川(天ヶ瀬温泉街)／日田市

2. 土砂災害対策の推進

大分県は土砂災害警戒区域が23,882区域あり、全国で6番目に多く、対策が急務となっています。ハード・ソフトの両面から土砂災害対策に総合的に取り組みます。

ハード対策 砂防関係施設の整備



令和3年6月発生 of 斜面崩壊／津久見市

ソフト対策 実効性のある避難行動確保のための取組

大分県土砂災害避難促進アクションプログラム



ハザードマップ再点検

避難訓練



砂防関係施設により土砂・落石等を捕捉(人的・家屋被害なし)

3. 地震・津波、高潮対策の推進

南海トラフ地震に事前に備えるため、県経済の要である大分臨海部コンビナートの護岸等の強化、緊急輸送道路における橋梁や建築物の耐震化、無電柱化、津波・高潮被災時等の道路啓開地区別実施計画に基づく対策等をハード・ソフト両面から総合的に推進します。



橋梁耐震化の事例



地震・津波、高潮被害に備えた海岸の整備／大分港沿岸

2 活力と潤いのある魅力的な地域づくり

1. 快適な都市空間の形成

交通渋滞の緩和を図る道路整備や、まちの顔となる都心部の道路空間の再生、自転車通行空間の整備、住民の憩いの場となるような都市公園の整備など、快適な都市空間の形成を推進します。



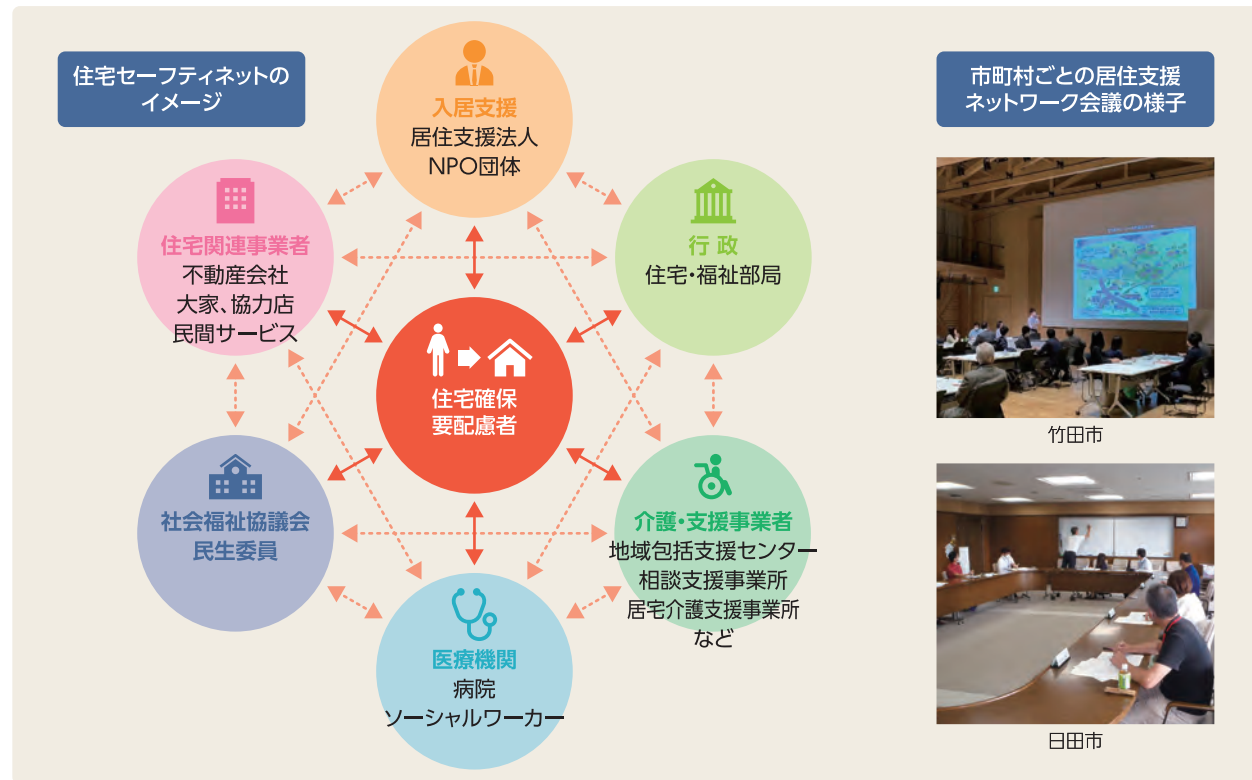
完成イメージ(庄の原佐野線:下郡工区/大分市)



リノベーションプロジェクト/まちの魅力の再生とにぎわいの創出(大分昭和通り交差点四隅広場/大分市)

2. 快適な住まいづくりの推進

安全・安心で安らぎのある快適な住まいを目指して、住宅セーフティネットの推進や県営住宅の建替・改善、子育て・高齢者世帯へのリフォーム支援、木造住宅の普及・振興、市町村と連携した空き家対策等に取り組めます。



住宅セーフティネットの推進(市町村ごとの居住支援ネットワーク会議の開催を支援)



3. 「おんせん県おおいた」のツーリズム支援

「日本一のおんせん県おおいたツーリズム戦略」を支えるため、観光施策と連携して、主要観光地を結ぶ道路整備や良好な景観の保全・形成、おもてなしの道路管理に取り組めます。



3 発展を支える交通ネットワークの充実

1. 広域道路ネットワークの構築

■東九州自動車道

「宇佐～院内」間及び臼杵IC付近に加え、令和3年度から「大分宮河内～臼杵」間の4車線化事業が着手されました。事業化区間の整備促進及び全線4車線化に向けた取組を推進します。

■中九州横断道路

令和元年度に事業化した竹田阿蘇道路は測量設計を進めており、令和3年度から残る未事業区間である「大分～犬飼」間において、計画段階評価のための調査が着手されました。中九州横断道路の全線開通に向けた取組を推進します。

■中津日田道路

令和3年2月に耶馬溪道路が開通しました。現在約27kmの区間(日田山国道路、耶馬溪山国道路、三光本耶馬溪道路)で整備を推進しており、早期開通を目指します。

■庄の原佐野線

平成29年度から「下郡工区」(下郡バイパス～米良バイパス)に事業着手しました。令和元年度から用地買収を実施しており、引き続き早期完成に向け、事業を推進します。



2.地域道路ネットワークの充実

地域の暮らしや産業を支える道づくりを進めるため、地域ネットワークとなる幹線道路において、渋滞や交通安全上の課題の多い箇所、インターチェンジへのアクセス道路等の整備を進めます。異常気象時においても地域間のネットワークを確保するため、啓開ルート上や災害時の通行止により集落が孤立する可能性のある道路において、斜面崩壊対策を推進します。



地域道路ネットワークの充実
(国道217号 平岩松崎BP開通/津久見市)



斜面崩壊対策
(国道212号/中津市)



側溝蓋かけによる路肩拡幅
(県道下恵良九重線/玖珠町)

3.海上輸送拠点の強化

大分県は、九州と本州・四国との間を結ぶフェリーの約8割が発着しており、海路と九州各県を循環する陸路(高速道路)の結節点となることから、大分港を物の流れの拠点、別府港を人の流れの拠点と位置づけ、観光や産業振興と連携しながら「九州の東の玄関口としての拠点化」に取り組みます。



【物流拠点】大分港(大分地区)の埠頭再編イメージ



アジア初の水平型小型人工衛星
打ち上げを目指す大分空港



【人流拠点】別府港再編イメージ



令和5年度中の運航開始を目指す
ホバークラフト

建設産業の魅力発信

■おおいた建設人材共育ネットワーク

産業・教育・行政がともに手を携え、次代を担う建設人材を確保・育成するため、「おおいた建設人材共育ネットワーク」を平成28年11月に立ち上げました。建設産業のPR動画制作、TVCMやWEB広告、SNSでの情報発信など様々な取組を通して、建設産業の魅力を発信します。



工業高校紹介動画制作



建設産業のPR動画制作

■高校生向け建設現場体験学習会

産学官連携の取組の1つとして、県内の土木・建築を学ぶ高校生を対象に建設現場体験学習会を開催しています。



マンション建設現場の見学



耶馬溪道路新設工事現場の見学

■小学校での出前授業

土木・建築分野への興味関心を深めてもらうため、主に県内の小学生を対象に出前授業を開催しています。ドローンの操縦体験等を通して、これからの建設現場についての学習やVR動画の視聴による津波の体験、地質模型を使った液状化現象の疑似体験などを通して災害時における建設業の必要性を学習しました。



未来の建設現場に関する授業



防災・減災に関する授業

建設DXの推進

建設業界の人手不足に対し、遠隔臨場の実施や施設点検におけるドローンの活用などにより、建設現場の効率化を図ります。3次元設計データやICT建設機械導入による現場の生産性向上のための体験会等を開催し、ICT活用工事を推進します。

現場(受注者)からのリアルタイム映像



土木事務所
(監督員確認状況)

動画撮影用カメラとWEB会議システムを利用した遠隔臨場による「段階確認」や「立会」の実施



ドローンを活用した橋梁点検の試行



内業:3次元設計データ作成

3次元設計データやICT建機導入による「現場の生産性向上体験会」



外業:マシンガイダンスシヨベル

いつもイキイキ 土木 けんせつ小町!

「けんせつ小町」は建設業で活躍する女性の愛称です。

前田建設工業株式会社 九州支店
土木部 土木施工グループ所属

ぞう りき きょう
臧 力嬌さん

2016年入社
宮崎大学 工学部 社会環境システム工学科卒業
中華人民共和国出身



技術者としてのスキルを磨き 仕事の幅を広げたいです。

建設業界に入った理由は何でしょうか。

モノづくりが好きだったことが、一番の理由です。高校時代、中国から宮崎の姉妹校に留学し、その後、大学に進学して土木環境分野を学びました。たとえば、大きくて仕事をイメージしやすい「橋梁」など、構造物ができていく過程を実際に感じながら、社会資本として地図に載るような仕事に力を注ぎたいとさらに強く思ったことから、建設業界へ入りました。現在、入社6年目ですが、入社後2年間、佐賀県武雄での新幹線高架橋工事に従事しました。

現在の仕事内容ややりがいを教えてください。

現在、土木施工グループで、本店との連絡や会議準備などの土木部の定例業務、また、職員教育の計画・実施、さらには現場での工務応援などに携わっています。仕事のやりがいを感じたのは、2年間務めた工事現場で、構造物が目の前で立ち上がり完成に近づいていく姿を見たときです。中国から来日した家族を案内し、「自分の仕事」として見てもらった際に大変喜んでくれました。技術者としての「誇り」を感じた瞬間でした。

これからの目標や叶えたい夢はありますか。

施工の最前線から内勤となりましたが、今は、違った目線で現場を見ることができます。また、現場の作業員だけでなく多様な人たちが工事を陰で支えていることも分かりました。今、その一員としてのやりがいも感じているところです。今後は技術者としてのスキルを磨いて、仕事の幅を広げたいと考えています。さらには「技術士」の資格も取り、設計にも携わりたいです。建設業界の中で自分らしさを発揮して働き、女性としても輝いている姿を見てもらいたいと思っています。



未来の
けんせつ小町へ
メッセージ!

建設業界は間違いなく、やりがいを感じられる業界です。環境改善がどんどん進んでいて、まだ見直す余地はあるものの、土臭いマイナスなイメージも無くなってきています。もちろん業界で働く女性も増えていきますし、楽しいこともたくさんあります。心配せずに建設業界へ入ってきてください。私自身、仕事がとても充実しているので、これまで何の違和感もなく働くことができます。

けんせつ小町!

「けんせつ小町」は建設業で活躍する女性の愛称です。

若築建設株式会社 九州支店
建築部所属

たざわ ななみ
田澤 七海さん

2020年入社
日本大学 理工学部 海洋建築工学科卒業
青森県出身



※2021年11月撮影：新型コロナウイルス感染防止に配慮し、マスクを外した際も適度な距離を保ち極力会話を交わさず、短時間で撮影しています。



工事に関わる人から信頼される 技術者へ一歩ずつ成長を。

建設業界に入った理由は何でしょうか。

小中学生の頃は、モノを作る技術の授業が大好きでした。高校生になってからはテレビで見た「建築士」の仕事に興味を持ったことから建築分野へ進むことを決心し、大学は建築学科を選択しました。在学中は、主に地域計画や福祉のまちづくり計画などを研究する研究室で学んでいたのですが、就職活動の際、建設業の仕事内容について調べていくうちに、やってみたいこととして興味を持ったのが、仕事の成果が形に残る建設現場の施工管理職でした。

現在の仕事内容ややりがいを教えてください。

安全管理、工事記録写真の撮影と管理、コンクリート打設前の段取りや打設後の出来形確認、各検査の立会いなどの施工管理が仕事です。まだ竣工の経験がないので、今、関わっている建物が竣工したときに達成感を覚えると思います。仕事の面白さを感じるのは建物の変化を目にして、「工事が進んでいる」と実感できたとき。また、建築現場には多様な工種と施工法が存在するので、計画して段取りを行い、工事を進めていくことに楽しさを感じます。

これからの目標や叶えたい夢はありますか。

施工管理の知識も経験も足りないので、仕事を一つ一つ確実にこなしていくこと、そして工事に関わる人々から信頼される技術者へ成長することが当面の目標です。そのためには資格も大事なので、「一級建築士」の資格取得をめざします。また女性は、ライフステージによって現場での施工管理が難しくなるかもしれないので、将来的には、設計業務や積算業務などの施工管理以外の仕事も視野に入れ、勉強を進めていく考えです。



未来の
けんせつ小町へ
メッセージ!

建設業界に興味はあるけど、「怖そう」「きつそう」と思う人もいることでしょう。そんな人は、インターンシップに参加してみてください。私も不安はありましたが、実際に体験することで消え去りました。仕事は、やってみないと分からないことが多くあります。興味のある人は、ぜひ飛び込んでください。多くの女性が建設業界に入り、共に頑張る日がくることを楽しみにしています。

工事情報 | ◎工事名:福岡中学校改築工事
◎概要:鉄筋コンクリート造・地上4階建/場所:福岡県福津市/工期:2020年(令和2年)6月30日~2022年(令和4年)9月30日

建設業の今とこれからをみんなで支える

建設キャリアアップシステム

建設キャリアアップシステムは、2023年度を目標に、あらゆる工事での完全実施に向けて取り組みを加速しています！

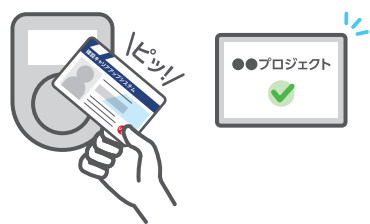
建設業の魅力向上にむけて

技能者一人ひとりの
「技能」と「経験」を
しっかりと「認め」「育てる」仕組みです

point
1

技能者の 処遇改善

- カードをタッチしたりモバイルを使って、就業履歴を蓄積。
- 技能者の賃金アップなど、能力や経験の蓄積を反映した処遇の改善につなげます。



point
2

明確な キャリアパス

- 技能者の「技能」と「経験」を4種類のレベル分けで評価。
- 業界共通の仕組みで、レベルアップが見通せて、若い人たちに選ばれる産業を目指します。



point
3

施工能力の 見える化

- 優秀な技能者を育てる事業者として施工能力のアピール。
- 仕事の増大につながります。
- 「人材を大事にする企業」であることをPR。
- 担い手の確保につながります。



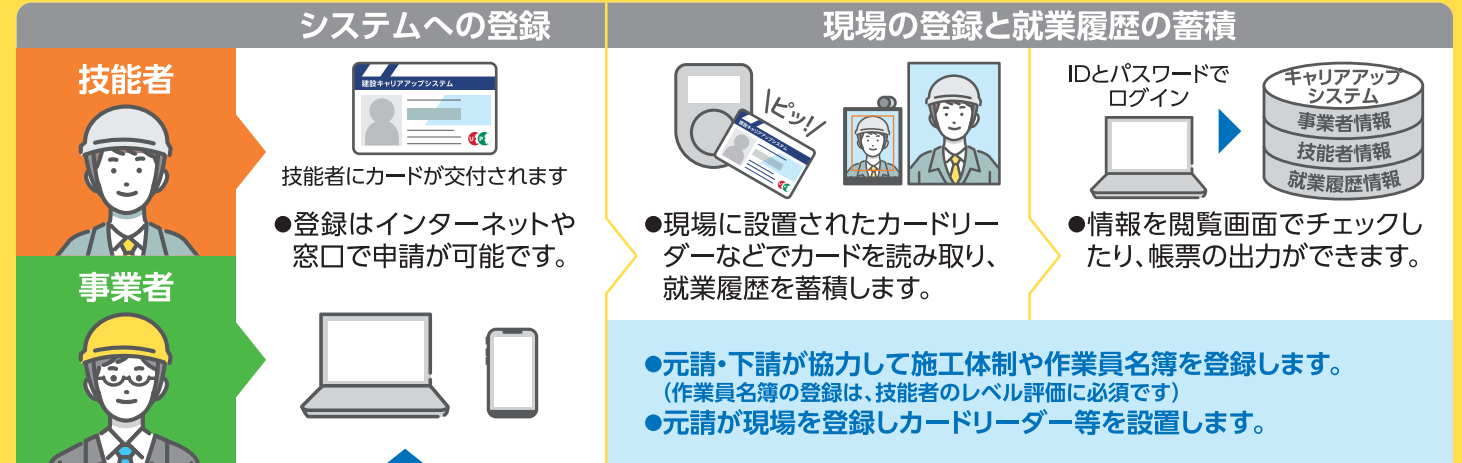
技能者を評価する仕組み

- 評価基準に合わせて4種類に色分けされた（白 ▶ 青 ▶ 銀 ▶ 金）カードを交付して評価。

事業者の施工能力の見える化を進める仕組み

- 所属する技能者の人数・評価。
- 施工実績、建機の保有状況。
- コンプライアンス、社会保険加入状況などで評価。

就業履歴の蓄積にはシステムへの登録が必要です



登録の代行申請を おすすめします！

- 代行申請により、技能者本人から同意を得た事業者が、技能者の登録申請を行えます。また同様に、同意を得た事業者が他事業者の代行申請も可能です。
- 身近な行政書士による代行申請が令和4年2月から可能となります。また、窓口登録（認定登録機関）も全国200箇所以上で可能となっています。

技能者のメリット

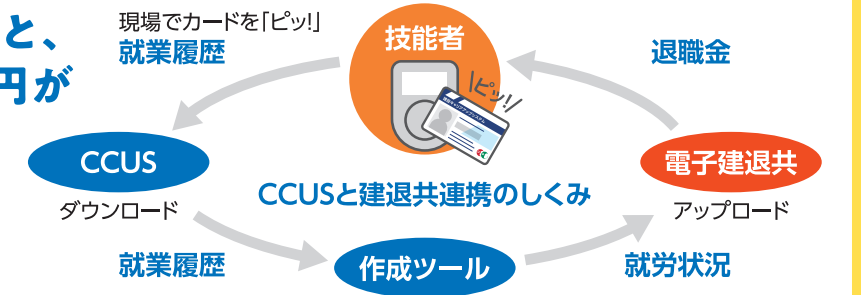


事業者のメリット



「ピッ!」とカードをタッチすると、 建退共で退職金の掛金320円が 積み立てられます。

- 電子申請により、掛金の納付がより確実に実施されます
- 元請、下請事業者の事務作業が大幅に軽減します



CCUSの利用料金には、「技能者登録料」、「事業者登録料」、運用時に事業者にお支払いいただく「管理者ID利用料」、「現場利用料」があります。



令和3年度大規模津波防災総合訓練

■主催/国土交通省・大分県・津久見市 ■開催日/2021年10月30日 ■場所/メイン会場:大分県津久見港
 ■参加機関/指定行政機関、指定公共機関、地方行政機関等107機関

九州の社会資本整備の重要性に関するシンポジウム

■主催/日本建設業連合会九州支部 ■開催日/2021年12月7日 ■場所/電気ビルみらいホール

南海トラフ巨大地震を想定した 陸海空にわたる迫真の訓練

「大規模津波防災総合訓練」は、地震による大規模津波の被害軽減を目指すとともに、津波に対する知識の普及・啓発を図ることを目的とした訓練です。平成27年に国連総会において制定された、11月5日の「世界津波の日」にあわせて全国的に実施されています。

令和3年度は、九州で開催。南海トラフ巨大地震での大規模津波の襲来が予想される「大分県津久見市」で10月30日に実施され、関係する107機関が参加しました。内容としては、地域住民による避難訓練のほか、最新機器を活用した情報伝達・共有訓練、防災機関による救助・救護訓練、障害物を取り除いて航路や緊急道路を確保する訓練などが本番さながらに行われました。

なお、コロナ対策のため一般見学は不可となりましたが、訓練の様子は動画サイトでライブ配信されました。



日建連は河川堤防の復旧を目指した 遠隔操作による無人化施工を実施

日建連九州支部は、内閣総理大臣から「指定公共機関」に指定されていることから、毎回この防災訓練に参加しています。当日は、巨大地震によって河川堤防が決壊したという想定のもと、九州地方整備局、全国土木コンクリートブロック協会、九州コンクリート製品協会、九州防災エキスパート会の連携によって、被災箇所の復旧作業を実施。訓練では、オペレーターが重機を遠隔操作によって動かし、リーブロックの運搬・納入および堤防被災箇所の復旧作業（無人化施工）を行いました。



ライブ配信の様子

「今後の九州の社会資本整備のあり方について」 をテーマに3つの講演を実施

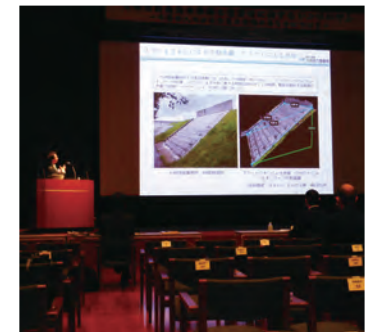
近年、気候変動の影響により激甚化・頻発化している気象災害や切迫する巨大地震から国民の生命・財産を守るため、防災・減災、国土強靭化、インフラ老朽化対策の計画的推進が喫緊の課題となっています。

今後、「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」のもと、社会資本の戦略的、計画的な整備により、国民の安全・安心に寄与するストック効果の高い社会資本を構築していくことが期待されます。

このシンポジウムは、社会資本整備が果たす役割とともに、防災・減災、国土強靭化策の必要性について、幅広く共通認識の醸成を図ることを主な目的として開催しました。なお、コロナ対策のため予約制を採用し、参加者約190名は体温測定、手指消毒を行った上で聴講。自然災害の頻発する九州においてどのような社会資本整備が必要かなど、多様な知識を深めました。

講演内容

- 1 「九州のレジリエンス確保に不可欠な交通インフラ整備」
塚原 健一 氏 九州大学 工学部土木工学科 教授
工学研究院附属アジア防災研究センター長
- 2 「九州の発展と交流インフラ」
岡野 秀之 氏 公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部長
- 3 「社会資本整備におけるDXの新たな取り組み」
森下 博之 氏 国土交通省九州地方整備局 企画部長



インターンシップ講演会

■主催／長崎大学 ■開催日／2021年11月30日 ■場所／長崎大学



2021年度インターンシップ講演会に会員企業から2名を派遣!

日建連九州支部は毎年、長崎大学工学部工学社会環境デザイン工学コースの要請によって会員企業から社員を派遣し、「インターンシップ講演会」で講演を行っています。これは、就職を控える学部学生および大学院生に対し、土木事業に携わる建設業者やコンサルタント業者、公務員の「生の声」を届け、進路決定に役立ててもらうために企画されたものです。

2021年度は日建連会員企業のオリエンタル白石㈱と前田建設工業㈱から、けんせつ小町2名が講師として派遣され、建設業界に関心を持つ学生たちに建設業や自社業務の紹介、また仕事のやりがいなどについて説明しました。

参加者の声 (社会環境デザイン工学コース3年生の感想文から抜粋)

古川采奈 ▶多くの土木技術者の方の講演をこの時間に聞くことができたのは、とても自分の将来の参考になりました。今までに何度か授業で働かされている方のお話を聞く機会がありましたが、その時よりも将来のことや就活について深く考える機会が増えた分、この講演会でのお話はとても興味やわくものばかりでした。建設業・コンサルタント業・公務員、どれも私のイメージ通りの点もあれば、そうではない新しい知識を得ることができました。私が印象的だった業界は、女性職員の方が2名来てくださった建設業です。正直、ゼネコンを含め現場で働く建設業について「私は女性だしな…」とマイナスイメージを持っています。現場に出て、泥だらけになって力仕事をする、そういったイメージが大きかったのですが、建設業を代表して講演してくださったお2方はどちらも女性で、口を揃えて「この仕事が誇りです」とおっしゃっていました。講演の中で、女性に対する様々な待遇やずっと現場に出るだけの仕事ではないということをお聞きし、私の持っていたイメージとは大きく異なるということが分かりました。女性でも働きやすい環境が、土木業界で推進されていることを改めて実感するきっかけにもなりました。

寺平勇希 ▶建設業の講演では、想像していたよりも頭を使うことがわかった。建設業やゼネコンと聞くと、現場に向いての力仕事が多めだというイメージがある。しかし、今回はオリエンタル白石㈱と前田建設工業㈱の各支店から、女性の方が講師として来てくださった。男性の割合が多い業界ではあるものの、女性の活躍も大きく、男女という分け方が少なくなっていることがわかった。そこで、力仕事等が多いイメージがあったので、不利ではないかと思いましたが、男女関係なく頭を使う場面が多いことがわかった。パソコンや周辺機器の操作が詳細設計が必要になる。今学校で使っているExcel・Word・PowerPointはよく使うソフトであり、レポート作成時などから様々な機能について理解しておく必要があると思った。他にも、資材注文や検査など、現場に行くものの力仕事をよく行うわけでもないことがわかった。また、現場と内勤との比率は6:4で、現場ばかりでないこともわかった。建設業の良さは、まず建設業というものはなくならない業界であること、自分たちで作りあげていっていることが実感できること、いろいろな仕事(発表等も仕事である)に挑戦できることだということも理解できた。

竹口綾音 ▶今回のインターンシップ講演会を受講して、貴重な情報を多く得ることができました。私は既に、自分が将来どのようなことを行いたいかを明確にしている、その職種について詳しく知ることができたので、とても有意義な時間を過ごすことができました。私は将来、地場のゼネコンに就職したいと考えているのですが、インターンシップに行った企業しか雰囲気を感じ取れていなかったため、大きなゼネコンの企業の話を知ることができ、参考になりました。特に、現場で働く仕事は女性が少なく、インターンに行った企業では土木分野の現場で働いている女性が一人もいなかったため、女性視点からの大変さややりがいなどを聞くことができませんでした。そのため、今回の講演会で女性ならではの考え方や楽しさを聞くことができたので良かったです。その中でも特に印象に残っているのが、産休や育休、家族のことについて、「家族を優先できない企業なら辞める気持ちだ。産休や育休を経ても戻ってきてほしい、会社においてほしいと思われるような人材になれるように頑張る。」というお話でした。女性が少ない業種なので、まだまだそういったことが浸透していないのではないかと、そのまま会社を辞めないといけないのではないかと、といった点が不安要素でした。しかし、そのように前向きに気を強く持つように、また、現場でいろいろなことを学んで吸収できるように一生懸命勉強しようというモチベーションにつながりました。

九州建設技術フォーラム2021

■主催／九州建設技術フォーラム実行委員会ほか ■開催日／2021年10月25・26日 ■場所／福岡国際会議場



九州建設技術フォーラムは、新しい建設技術の開発・活用・普及促進をより効果的に図るために、「産」「学」「官」が、それぞれの新技術の開発・活用の取り組みについて情報を発信・交換するイベントです。技術情報のブース展示やポスターセッションなどの形をとりながら連携を深め、九州における建設技術のさらなる発展をめざして毎年開催されています。

新型コロナウイルス防止の対策として、2021年度も予約制を採用し、体温測定などを行ったうえで実施されました。今回は、「インフラDXの推進～新たな社会の構築に向けて」というテーマのもと、基調講演(WEBでも配信)が行われたほか、ブース展示、ポスターセッションなどで技術情報を提供。WEBサイトでは、出展技術・技術関連資料・出展者情報なども配信されました。会場へは、日建連会員企業など建設企業に加え、行政や研究機関などから計2,123人が来場しました。なお、「リクルーティングプレゼンテーション」は、専用ホームページから配信。日建連を紹介したほか、建設業界の構成や魅力を説明しました。

意見交換会

■主催／日建連九州支部 ■開催日／2021年12月1日 ■場所／第三博多倍成ビル



毎年、日建連九州支部では国土交通省九州地方整備局と「現場における諸課題に関する意見交換会」を開催しています。2021年度は27人が出席して意見を交換しました。冒頭、川村信司支部長が、「日建連では、担い手確保、生産性の向上、働き方改革を重点課題として持続的に社会資本を整備し、地域社会の安全・安心を担保できるよう、また建設業を魅力ある産業へ進化させていく活動を続けている」と日建連の活動を紹介しながら挨拶。

これに対し「さらなる防災・減災、国土強靱化の加速化・進化を図りたい。現場の諸課題の改善を進め、皆さんと共に課題を一步一步解決していくことを通じて、建設業が健全に発展し、若者が希望を持てる業界となるようにご協力をお願いしたい」と九州地方整備局の森下博之企画部長が挨拶されました。続いて、九州支部が「入札契約手続きについて」、「生産性の向上について」、「労働環境について」など8つの提案テーマを説明し、九州地方整備局はこの提案に回答。その後は「自由討議」も実施され、約2時間にわたり活発な意見交換が行われました。

災害防止総決起大会

■主催/日建連九州支部安全環境委員会 ■後援/福岡労働局 ■開催日/2021年11月22日 ■場所/福岡国際会議場



建設業における労働災害は長期的には減少傾向にありますが、死亡者数は依然として全産業の中で占める割合が高く、憂慮すべき状況は変わりません。そこで九州支部では年末年始の災害防止活動として11月に「災害防止総決起大会」を福岡労働局の後援のもと開催し、労働災害の撲滅を期しています。2021年度は川村信司支部長、福岡労働局労働基準部安全課の奥菌雅典課長の挨拶に続き2つの講演が行われました。

まず、福岡労働局労働基準部安全課の秋本雄一産業安全専門官が、「建設業における労働災害の防止について」という演題で、「労働災害発生状況」や「第13次労働災害防止計画」などを説明。次いで、九州地方整備局企画部の竹下卓宏技術調整管理官が登壇。「建設現場における事故防止の取り組みについて」という演題で「工事事故発生状況(全国・九州)」や「工事事故の発生事例」などを解説されました。また講演の後は、尾崎光義安全環境委員会第1小委員長が「決意表明」を引田守安全環境委員会委員長へ読み上げ大会は終了しました。

安全環境委員会活動

講習会の開催状況

〈2021年度 安全環境委員会の主要活動〉

部会別区分	講習会受講者
交通	1回 45名
地下埋	1回 75名
火薬類	1回 47名
環境	1回 58名
計	4回 225名

※2021年度の安全環境委員会は、新型コロナウイルスの感染防止のために「現場点検」は実施せず、各種講習会だけを開催しました。



建設技術講演会

■主催/日建連九州支部 ■開催日/2021年12月23日 ■場所/福岡国際会議場



建設技術講演会は、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進し国民生活と産業活動基盤の充実に寄与することを目的に、建設産業に関する専門的知識の習得および研鑽を図るために開催されています。

2021年度は吉田卓生副支部長の挨拶に続いて、3つの講演を実施しました。まずは、九州地方整備局の森下博之企画部長による「建設業における最近の話題」という演題でスタート。「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等」「建設業における働き方改革」などの内容を、わかりやすく説明されました。次いで、九州大学大学院工学研究院のハザリカ・ヘマンタ教授が登壇され、「豪雨による斜面災害防止に向けた持続可能なソフト対策および今後の取り組み」というテーマの高度な内容を解説されました。最後には、九州地方整備局企画部の岩崎征弘建設情報・施工高度化技術調整官が、「インフラ分野のDXの推進」という演題で、進展する多様なデジタルトランスフォーメーションの取り組みなどを説明。2021年度も建設技術の知識を深める充実した講演会となりました。

生産性向上、担い手確保に関する講習会

■主催/日建連九州支部 ■開催日/2022年1月13日 ■場所/福岡国際会議場



現在、日建連では「生産性の向上」「担い手確保」「働き方改革」を重点課題として取り組んでおり、建設産業が魅力ある業界へと進化するように力を注いでいます。今回は、その一環として開催された講習会で、川村信司支部長の挨拶の後、2名の講師による講演が行われました。

最初は、九州地方整備局企画部の竹下卓宏技術調整管理官による「九州地方整備局における取り組み」という講演。「公共事業関係予算」から始まり、「生産性向上に向けた取り組み(九州地整)」では、i-Constructionやインフラ分野のDXなどについて、「担い手確保に向けた取り組み(九州地整)」では、週休2日の取り組みなどを解説されました。次いで、(一社)日本建設業連合会インフラ再生委員会・技術部会・CIM活用WGリーダーの杉浦伸哉氏が、「インフラDXに向けた取組について」という演題で講演。「建設DXとは何か」「建設DXの進め方」などを説明されたほか、会員企業における「各種事例」なども紹介されました。最後は、(一社)日本建設業連合会本部の常務執行役・伊勢田敏氏の挨拶で講習会は終了しました。

団体の概要

〈一般社団法人日本建設業連合会〉

■設立

(社)日本建設業団体連合会(旧日建連)、(社)日本土木工業協会(土工協)、(社)建築業協会(建築協)の三団体は、2011年4月1日に合併し、(社)日本建設業連合会(日建連)として新たに発足しました。また、2013年4月に一般社団法人に移行しました。建設業界が大きな転換期を迎えつつある今、建設業団体としての機能を一層強化・拡充し、建設業の発展に向けた活動をより強力に展開してまいります。

■目的

日本建設業連合会(日建連)は、日本を代表する総合建設業者を主な構成員とする団体です。日建連は、建設業に係る諸制度をはじめ、建設産業における内外の基本的な諸課題の解決に取り組むとともに、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進することにより、わが国の建設産業界の健全な発展を図り、もって国民生活と産業活動の充実に寄与すること、を目的としています。

■会員

日建連は、建設業界の連合組織であり、正会員である団体会員と法人会員、および特別会員によって構成されています。

- 法人会員…一定規模以上の総合建設業者
- 団体会員…主に総合建設業者で構成する事業者団体

さらに、日本国内で事業活動を行っている外国の建設業者及び、建設業に密接に関連する事業を行っている法人を対象にした特別会員制度も設けています。

2022年2月1日現在の会員数は、正会員142社・5団体、特別会員6社です。

■役員

総会において理事、監事が選任されます。任期はそれぞれ2年となっています。協会活動の円滑な運営を図るため、理事会の決議により会長、副会長、事務総長、専務理事、常務理事を置いています。

■機関

事業を推進するため、次の機関を設置しています。

- ①総会
定時、臨時の2種類があり、定時総会は毎年4月に開催されます。事業計画、収支予算、役員を選任など協会活動の基本的な諸事項について審議、決定します。
- ②理事会
通常、毎月1回開催され、総会に付議する事項や総会の議決を要しない会務に関する事項を審議、決定します。
- ③事業本部および委員会
協会活動の中心となる調査研究組織であり、2つの事業本部と2つの特別委員会、28の委員会を設けています。委員は会員各社から募り、建設業に係る諸問題について調査研究活動を行っています。
- ④支部
全国9地区に支部を設置しています。支部には、支部長、副支部長、運営委員、監査委員を置き、本部の活動方針に基づく活動を行っています。
- ⑤事務局
本部、支部それぞれに事務局を設置しています。

〈九州支部の概要〉

■設立

当支部は、本部の合併により、2011年4月1日から(社)日本建設業連合会(日建連)の九州支部となりました。また、2013年4月に一般社団法人に移行しました。

支部の活動は、引き続き従来どおりの活動を行うとともに、3団体合併の主旨に則り、建設産業全体の健全な発展へ向けた諸活動をより強力に展開してまいります。

■会員

支部の会員は「九州地区において本社・支店等を有し建設業を営業者で、かつ、本部会員である者」に限られています。また、九州地区に本社・支店等がなくても、本部正会員であれば、支部の会員になることができます。

したがって企業規模・技術水準・社会的信用などあらゆる面で真に業界を代表するに足る企業によって構成されている団体です。

会員数は2022年2月1日現在で58社を数えています。

■役員

支部長は総会において、支部長候補者の了承後、会長から任命されます。副支部長は総会で選任された運営委員の互選により支部長が任命します。副支部長は9名を置いています。監査委員は総会において推薦者の了承後監事が指名します。任期はそれぞれ2年となっています。

■事業

本支部は次のような事業を行っています。

- ①災害対策への対応
- ②公共工事の円滑な実施
- ③安全・環境対策等の推進
- ④請負契約制度の改善及び積算の適正化と資材対策の推進
- ⑤技術開発の推進
- ⑥電力施設建設事業、鉄道建設事業、海洋開発建設事業の推進
- ⑦広報活動の推進

■委員会

支部活動の中心となる調査研究機関として、広く会員から委員を募り、総務広報委員会、契約委員会、積算資材委員会、電力委員会、鉄道委員会、安全環境委員会、建築委員会を設置しています。

■沖縄支所

沖縄地区での活動を実施するため、1996年6月から沖縄に支所を置いています。支所に所属する会員数は43社を有しています。

一般社団法人日本建設業連合会九州支部会員

(五十音順 2022年2月1日現在58社)

ア

アイサワ工業(株)九州支店
青木あすなろ建設(株)九州支店
あおみ建設(株)九州支店
(株)浅川組九州営業所
(株)浅沼組九州支店
(株)新井組九州支店
(株)安藤・間九州支店

イ

岩田地崎建設(株)九州支店

ウ

梅林建設(株)

オ

大木建設(株)九州支店
(株)大林組九州支店
(株)大本組九州支店
(株)奥村組九州支店
オリエンタル白石(株)福岡支店

カ

鹿島建設(株)九州支店
鹿島道路(株)九州支店

キ

九鉄工業(株)

ク

(株)熊谷組九州支店

コ

広成建設(株)九州支店
(株)鴻池組九州支店
五洋建設(株)九州支店

サ

佐藤工業(株)九州支店
三軌建設(株)

シ

清水建設(株)九州支店
ショーボンド建設(株)九州支店

セ

西武建設(株)九州支店
(株)銭高組九州支店

タ

大成建設(株)九州支店
大成ロテック(株)九州支社
大日本土木(株)九州支店
大豊建設(株)九州支店
(株)竹中工務店九州支店
(株)竹中土木九州支店

テ

鉄建建設(株)九州支店

ト

東亜建設工業(株)九州支店
東急建設(株)九州支店
東洋建設(株)九州支店
戸田建設(株)九州支店
飛鳥建設(株)九州支店

ニ

西松建設(株)九州支社
日特建設(株)九州支店
日本国土開発(株)九州支店

ノ

(株)ノバック九州支店

ヒ

(株)ピーエス三菱九州支店

フ

(株)福田組九州支店
(株)フジタ九州支店
(株)不動テトラ九州支店

ホ

(株)本間組九州支店

マ

前田建設工業(株)九州支店
松尾建設(株)

ミ

三井住友建設(株)九州支店
みらい建設工業(株)九州支店

ム

村本建設(株)九州支店

モ

(株)森本組九州支店

ヨ

(株)吉田組九州支店
寄神建設(株)九州支店

リ

りんかい日産建設(株)九州支店

ワ

若築建設(株)九州支店

役員

(2022年2月1日付)

支部長	大成建設(株)九州支店長 川村 信司	副支部長	清水建設(株)九州支店長 坂尾 彰信
副支部長	西松建設(株)九州支社長 吉田 卓生	"	(株)安藤・間九州支店長 五所 久和
"	梅林建設(株)社長 梅林 秀伍	"	鉄建建設(株)九州支店長 白井 稔久
"	鹿島建設(株)九州支店長 小森 浩之	"	(株)大林組九州支店長 引田 守
"	(株)熊谷組九州支店長 宮脇 悟	"	(株)鴻池組九州支店長 川端 陽一
運営委員	青木あすなろ建設(株)九州支店長 福本 聖史	運営委員	日本国土開発(株)九州支店長 草野 康成
"	(株)奥村組九州支店長 林 裕之	"	(株)フジタ九州支店長 河端 巧
"	九鉄工業(株)社長 古賀 徹志	"	前田建設工業(株)九州支店長 尾付野 誠
"	五洋建設(株)九州支店長 小倉 征巳	"	松尾建設(株)社長 松尾 哲吾
"	佐藤工業(株)九州支店長 中村 豊彦	"	三井住友建設(株)九州支店長 柴田 雅俊
"	(株)銭高組九州支店長 野間 栄喜	監査委員	大日本土木(株)九州支店長 中山 努
"	(株)竹中土木九州支店長 山田 敏昭	"	東急建設(株)九州支店長 三嶋 昭
"	戸田建設(株)九州支店長 畑中 靖博	"	(株)不動テトラ九州支店長 佐藤 敬
"	飛鳥建設(株)九州支店長 曾我部 真也		